

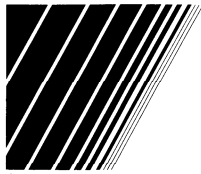
# 研究日誌

平成六年度・研究事業  
(追加分を含む)の推進について

当研究所の本年度研究事業計画については、会報第14号でそのあらましを(紹介しましたが、その後追加になったテーマ(下記)を含めて、各研究チーム毎に鋭意事業の推進に取り組んでおります。

◎新たに追加された事業

- 一、21世紀の新技术導入調査  
 Ⅱ 農業への地域エネルギー導入Ⅱ(石狩支庁から受託)
- 二、自由化による影響分析・調査  
 Ⅱ シミコレーション解析Ⅱ(北海道農政部から受託)
- 三、環境適応型酪農の調査研究  
 (北海道畜産会との共同研究)
- 四、八雲農業振興プロジェクトに係る地域農業実態調査
- 五、新規就農支援強化計画策定  
 Ⅱ 七飯町における農作業請負組織の設置計画に関する調査業務Ⅱ
- 六、大規模畑作・畜産農業地帯における農業、生活環境等の効果的手法に関する調査  
 (農政調査委員会から受託)
- 七、農協系統における営農技術指導体制の強化に関する研究  
 Ⅱ 技術指導の現況と営農指導のあり方Ⅱ(全国農業協同組合中央会・奨励研究)
- 八、新時代対応草地利農システム確立調査  
 (北海道草地協会から受託)



## DATA FILE

### 関連事項/ DATA

- 札幌大学経済学部  
〒062 札幌市豊平区西岡3条7丁目  
☎011(852)1181
- (社)日本中小企業技術振興協会 北海道支部  
〒062 札幌市平岸2条6丁目1-14三慶ビル  
☎011(821)1643
- 生活協同組合連合会グリーンコープ事業連合  
〒812 福岡市博多区博多駅中央街8番36号  
博多ビル7F  
☎092(481)7776
- 生活協同組合コープこうべ 商品開発部  
〒658 神戸市東灘区住吉本町1丁目3番19号  
食糧政策研究会事務局  
〒981 仙台市青葉区堤通雨宮町1-1  
東北大学農学部農学科生物資源情報講座  
(河相一成氏気付)  
☎022(272)4321
- 北海道大学 経済学部  
〒060 札幌市北区北9条西7丁目  
☎011(716)2111
- 北海道立中央農業試験場  
〒069-13夕張郡長沼町東6線北15号  
☎01238(9)2001
- 知内町役場  
〒049-11 上磯郡知内町字重内22-1  
☎0392(5)6161
- J A 白糠町  
〒088-3 白糠郡白糠町西1条北2丁目2-23  
☎01547(2)2235
- 市立名寄短期大学  
〒096 名寄市大橋1  
☎01654(2)4194
- 福井県農林水産部 農林技術開発普及室  
〒910 福井市大手3丁目17-1  
☎0776(21)1111
- ホクレン農業協同組合連合会  
〒060-91札幌市中央区北4条西1丁目  
☎011(231)2111

### 掲示板

学会・研究会  
での報告者、  
研修会等への  
講師派遣

(平成6年11月〜7年2月)

○農家経済再建指導担当後職員  
研修交流会

主催 J A北海道中央会  
とき 平成6年11月8日  
(北見市)

11月14日(苫小牧市)

テーマ 「経営危機の病理と臨床」  
講師 七戸 長生(当研究所・  
所長)

○第88回農業経済学会例会・

シンポジウム・報告

主催 北海道農業経済学会

とき 平成6年11月19日

テーマ 「酪農規模拡大構造の再

検討」

報告者 吉野 宣彦(当研究所・

専任研究員)

○第88回農業経済学会例会・

個別報告

主催 北海道農業経済学会

とき 平成6年11月20日  
テーマ ①「道内農協における作物別生産者組織の現状と課題Ⅱ農協の営農指導との関連においてⅡ」  
講師 七戸 長生(当研究所・所長)  
主催 業のあり方  
とき 平成7年1月26日  
テーマ 「北海道農業における情報化の課題とオホーツク農業」  
講師 七戸 長生(当研究所・所長)  
主催 オホーツク産業情報化推進会議  
とき 平成7年2月3日  
テーマ 「農家の経済とゆとり」  
講師 吉野 宣彦(当研究所・専任研究員)  
主催 第3回浜中町酪農学習会  
主催 浜中町酪農交流会実行委員会

報告者 河村 彰仁(当研究所・専任研究員)  
テーマ ②「北海道における農協組合員勘定制度と営農指導事業Ⅱ組織導入期の理念と実態Ⅱ」  
報告者 田淵 直子(当研究所・嘱託研究員)  
とき 平成6年12月24日  
テーマ 「規模適正化に求められる経営理念Ⅱ経営規模縮小による所得増大の実践についてⅡ」  
講師 吉野 宣彦(当研究所・専任研究員)  
主催 追分町畜産視察研修事業講演会  
振興会  
講師 七戸 長生(当研究所・所長)  
主催 追分町農協・追分町畜産振興会  
講師 七戸 長生(当研究所・所長)  
主催 更別村農業セミナー  
主催 更別村農業構造政策推進会議・更別村農協  
とき 平成7年2月7日  
テーマ 「これからの農村生活」  
講師 七戸 長生(当研究所・所長)

○湧別町農村婦人研修会  
主催 湧別町  
とき 平成6年11月28日  
テーマ 「新しい農村づくりの三つのカギⅡ発想・主役・手順Ⅱ」  
講師 七戸 長生(当研究所・所長)  
○第25回J A青年大学  
主催 J A北海道中央会  
とき 平成7年1月20日  
テーマ 「野菜の産地形成の課題と取り組みの方向Ⅱ競争力のある産地形成をめざしてⅡ」  
講師 富田 義昭(当研究所・常務理事)  
○95千歳市農業セミナー・経営者研修  
主催 千歳市農業振興会  
とき 平成7年2月3日  
テーマ 「地域農業活性化の課題と方向Ⅱ営農支援システムおよび野菜振興の取り組みⅡ」  
講師 富田 義昭(当研究所・常務理事)  
○門別町農業講演会  
主催 門別町  
とき 平成7年2月22日  
テーマ 「新食糧法と今後の稲作農業の展開」  
講師 岩崎 徹(札幌大学経済学部・教授)

○今金町農業確立対策研修会  
主催 今金町農業確立対策協議会  
とき 平成6年12月5日  
○オホーツク産業情報化推進会議設立総会・記念講演  
主催 清里町農業講座  
主催 清里町  
とき 平成7年2月22日

とき 平成6年12月24日  
講師 吉野 宣彦(当研究所・専任研究員)  
主催 更別村農業セミナー  
主催 更別村農業構造政策推進会議・更別村農協  
とき 平成7年2月7日  
講師 七戸 長生(当研究所・所長)  
○清里町農業講座  
主催 清里町  
とき 平成7年2月22日

テーマ 「畑作農業の課題と方向  
について」

講師 富田 義昭(当研究所・  
常務理事)

○滝川市農業講座

主催 滝川市

とき 平成7年2月27日

テーマ 「ガットウルグアイ・ラ  
ウンド合意と新食糧法」

講師 三島 徳三(北海道大学  
農学部・教授)

## お知らせ

### 地域農業研究叢書特別号

#### 有償頒布のご案内

◎地域農業研究叢書・特別号 No.1

「花きの生産・流通・消費の

現状と将来展望」

―拡大と革新を目指す花き産業―

B5版 三三三ページ

頒布価格 一、〇〇〇円

(消費税・送料込み)

◎地域農業研究叢書・特別号 No.2  
「農産物の鮮度保持物流に  
関する調査研究報告」

―移出農産物の出荷・輸送の  
現状と将来方向―

A4版 一八九ページ

頒布価格 三、〇〇〇円

(消費税・送料込み)

花きについては、本道の戦略型  
作目として販売伸長の著しい品目  
ですが、生産から消費まで体系的  
に全国規模で調査した結果を分析  
取りまとめている。

また、物流については昨今、価  
格破壊が叫ばれる状況の中、遠隔  
産地としての不利な条件を克服し  
ながら鮮度を保った良い品質の農  
産物を、消費地に安定供給するこ  
ういう重要課題を取り上げている。  
平成四〜五年にかけて行ったアン  
ケートや聞き取り調査などを掲載  
している。

ご購入の申込みは、電話(01  
1・751・1103)またはF  
AX(011・751・1106)  
で受け付けてあります。

## 後編 記集

◆一九九五年の日本列島は、地震とと  
もに明けた。北海道・東北に始まった群  
発的な地震はその後、北関東、沖縄まで  
飛び火し、一月一七日午前五時四六分に  
発生した「兵庫県南部地震(阪神大震災)」  
は、かつてない多くの尊い人命を奪い去  
り、現代文明がつくりあげた都市構造を  
完膚なきまでに破壊した。

被災された方々に心からお見舞いを申  
し上げるとともに、一日も早い復旧を祈  
るばかりだが、それにも自然の力の  
前では余りにも脆い人間社会の現実を、  
改めて恐れおののく。

◆海の方このアメリカでは、昨年一  
月東海岸一帯はマイナス二〇度を超す記  
録的な寒波で震え上がっていたのが、今  
年は一転して未曾有の暖冬異変とが。

一月四日にはニューヨークでプラス  
一八度、ワシントンは二度を超え、真  
冬というのに半袖でゴルフやサッカーに  
興じる市民の姿が新聞やテレビに映し出  
されていた。

◆同じ一月一四日のワシントン発共同  
通信は、環境政策シンクタンク・ワール  
ドウォッチ研究所の予測として、「世界の  
食料生産 限界」↓政治・経済が混乱↓  
平均所得減少も……という95年版地球  
環境年次報告書を発表している。

それによると、90年代は30年代の大恐  
慌以来初めて人類一人当たりの所得が減  
少する一〇年間になるかも知れないとし  
ている。農業生産では水不足が打撃を与  
えており、米国や中国北部では都市の飲  
料水や工業用水確保のため農業用水が犠  
牲になっているし、インドでは穀倉地帯  
のパンジャブ州などで地下水の水位が急  
速に低下したと報じている。さらにつづ  
けて、化学肥料で農業生産を増やす方法  
は限界に突き当たり、世界の穀物備蓄量  
は85年の四億六千五百万トンが93年に  
は約三億トンに減ったとし、ルワンダの  
大虐殺の例が示すように、食料不足によ  
る政治対立の先鋭化で混乱が拡大し、そ  
の結果世界の経済成長が阻害されると警  
告を発している。

◆天の啓示といつては少々大袈裟かも  
知れないが、「物の豊かさ」だけを追い  
求めつけてきた人類の営みに対する鉄  
槌が、今、振り下ろされて来てはいない  
のだろうか。

本号は、特集記事をはじめ道内外の各  
界で活躍の方々に「執筆をお願いした。  
年末年始の公私ともに最もお忙しい時期  
に、特に時間を割いて貰い役に立つ、中  
身の濃い提言をたくさん頂戴した。そ  
れらをまた一つの糧として、備えの万全  
を期していきたい。(K・T)